



初来日! 6/2 (土) 登壇決定!
イタリアの新星 リマウ・グリッコ・リッツベルガー

2000人以上のオーディションを勝ち抜いた新人俳優リマウ・グリッコ・リッツベルガーが初来日! オーストリアとインドネシアの血を引くエキゾチックな魅力の彼に会いに劇場へお越しください!

場所: 新宿シネマカリテ、渋谷アップリンク ※詳細は劇場公式サイトよりご確認ください。

Present!



6/2 (土) 来場者プレゼント!
キャンディー型がキュートな発泡入浴剤

初日にご来場のお客様に“アマイワナ バスキャンディー”(初恋ローズ・ビタミンフルーツジュース・真夏のココいちごドロップ)を先着でプレゼント。

(種類は選べません。数量限定・先着順)

提供: グローバルプロダクトプランニング <http://www.gpp-shop.com/>



Tie-up!



セガフレード・ザネッティ・エスプレッソ

イタリアンカフェ・パールのセガフレード・ザネッティ・エスプレッソでは、映画「最初で最後のキス」とのタイアップを記念してクラブミオバル会員向けの鑑賞券プレゼントを実施します。詳しくはセガフレードのwebをチェックしてください。

<http://www.segafredo.jp/>



友達3人で
おトクに
映画を観よう!

高校生3人割引

●割引概要

高校生かつ3名でお越しのお客様に限り、窓口にて高校生3人割引ご利用とお申し付けいただき、学生証を3名様ご提示いただく、通常おひとりにつき最大高生料金1,500円の処、各1,000円にて作品をご鑑賞いただけます。

●注意事項

※窓口でチケットを買い求めの方のみ適用となります。インターネットからのチケット購入ではご利用にいただけません。※他各種割引との併用は不可となります。※一部劇場のみ、各劇場へお問い合わせください。

監督・原案・脚本: イヴァン・コトローネオ 出演: リマウ・グリッコ・リッツベルガー / ヴァレンティーナ・ロマーニ
レオナルド・バッザリ / デニス・ファゾーロ / アレッサンドロ・スベルドゥーティ 2016年 / イタリア / イタリア語 / 106分 / カラー / シネマスコープ / ドルビー5.1ch
原題: Un Bacio 字幕: 山田香苗 提供: 日本イタリア映画社 配給: ミモザフィルムズ / 日本イタリア映画社 宣伝: ミモザフィルムズ
宣伝協力: 平井直子 後援: イタリア大使館 / イタリア文化会館 ©2016 Indigo Film - Titanus

onekiss-movie.jp

6/2 (土) より
心を揺さぶる
ロードショー!

特別鑑賞券¥1,500(税込) 絶賛発売中(当日一般¥1,800のところ)
※劇場窓口にてお買い求めの方にオリジナルクリアファイルをプレゼント(限定数)

JR新宿駅東南口GAP並び NOWAビルB1F
新宿 **シネマカリテ**
03(3352)5645
<http://qualite.musashino-k.jp/>
全席指定 / 入替制

東京都渋谷区宇田川町37-18 トツネビル1・2F
UPLINK 渋谷
03-6825-5503

●7/7【北海道】シアターキノ / 011-231-9355 ●7/13【宮城】フォーラム仙台 / 022-728-7866 ●8/18【愛知】センチュリーシネマ / 052-264-8580 ●順次公開【山形】フォーラム山形 / 023-632-3220【神奈川】シネマ・ジャック&ベティ / 045-243-9800【埼玉】川越スカラ座 / 049-223-0733【大阪】シネ・リーブル梅田 / 06-6440-5930【京都】京都シネマ / 075-353-4723【鹿児島】ガーデンズシネマ / 099-222-8746 ほか
※公式サイトにて随時更新いたします。※その他、上映時間等につきましては各劇場までお問い合わせください。



不器用な僕らが
誰よりも輝いていた日々



ONLINE KISS
最初で最後のキス



イタリアでスマッシュヒット! 16歳の恋と友情をビタースイートに描いた青春映画。



ティーンだったあの時代。私たちは理不尽な事や人たちと、
どうやって折り合いをつけていたんだろう。
目の前の絶望や悲しみを、どうやり過ごしていたんだろう。
**青春時代の「痛み」に向き合う機会を、
この映画はもたらしてくれる。**

シトウレイ (ストリートスタイルフォトグラファー/ジャーナリスト)

自分自身でいることを恐れない男の子と女の子と、
その輝きに魅せられた男の子。
十代の観客にこのまぶしさを見て欲しい。
そして三人の友情がいつまでも続く方法を見つけて、
彼らを救い出して欲しい。

山崎まどか (コラムニスト)

無知の方が人生を幸せと感じる事がない。
差別や偏見は無知から来て、周りを不幸にしてしまう。
**個人の謙虚さとオープンマインドは皆の人生を
楽しく、明るく、元気よくする鍵である。**

ベリッシモ・フランチェスコ (タレント・料理研究家)

**「若者たちよ、愚かな道を選ばずに、
どうか最高の青春を送ってくれ」**

そんなメッセージを真摯に伝えようと試みた、正しい大人が作った映画。
この映画がすべてのティーンエイジャーに届きますように!

山内マリコ (作家)

はぐれた青春はパズルのピース。
複雑なカタチこそ結ばれる力は強く、
**誰とも合わないはずの
尖ったココロは、
転がりながら、
その光と闇を描き出す。**

ブルボンヌ (女装パフォーマー)

近いのに遠いとか、正しいとか間違ってるとか、
好きとか嫌いとか、対立がぶつかる時に
生まれるものを捉えようとする冷静な視点が突き刺さる。
やはり**映画とは言葉にならない感情を
伝えられる表現なのだ。**

松江哲明 (ドキュメンタリー監督)

ティーンのむき出しの感情が妄想と共にほとぼしる傑作!

生きやすい世の中のための格言のようなセリフが山盛りで、誰もが考えさせられるはず。
そして現代社会の最大の問題は大人の無知にあることを思い知らされる。

よしひろまさみち (映画ライター)

私の友人はロレンツォみたいな男の子が沢山いるので感情移入しやすい映画だった。
ヒロイン、ブルーとロレンツォのあの感じがリアルに伝わってくる。
そこにもう一人の男の子。**不器用な青春って本当こういう感じ。**

まつゆう* (クリエイター/モデル)

「お前ホモでいいよな。不幸だから」と
妬まれたことがある。
人は、「持っていない」ことに不安を感じ、
"持っている人"を理不尽に攻撃することもある。

**そんな世界を平気で
サヴァイバルしていくには、
勇気と知識が必要だ。**

橋口亮輔 (映画監督)

きっとあなたも居た風景。
でも、もしかしら見逃していたかもしれない風景。
儚く、揺れ動く青春時代。
カラフルになりたいのに、侮蔑の視線が暴力になる。
あなたはスクリーンに、どのような視線を送る?
シアターを後にした後は、隣人にどのような視線を?

荻上チキ (評論家・ラジオパーソナリティ)

「思春期は多感な時期」って言うけれど、
美しいことも醜いことも「初体験」だらけ。
だから選択肢は多くなくて、多感ではいられなかった。
自分たちの指向も思考も嗜好も多種多様なのに、
自由度は小さい。そう思い込んでいた10代。
だから結末がこんなに衝撃的なんだ。

東ちづる (女優)

「君の名前で僕を呼んで」が
古い絵葉書のようにきれいだしたら、
「最初で最後のキス」には
**現代の若者の夢と現実が痛いほど
リアルに詰め込まれている。**

とくに最後は痛すぎるんじゃないか——
かなり前から結末が予想できてしまっただけになおさら。
いや、その痛さこそが、絵葉書にはない
この映画のアクチュアリティなのだ。

浅田彰 (批評家)

**こんなにも切なく、
いとおいしいキスを見たことがない。**

かずえちゃん (youtuber)



**女子♀1×男子♂2の
恋と友情を
ビタースイートに描く
青春ストーリー!**

STORY
イタリア北部・ウーディネ。スターを夢見る同性愛者の転校生ロレンツォは、愛情深い里親に引き取られ、トリノからこの町にやって来るが、奇抜な服装で瞬間に学校で浮いた存在に。
“尻軽女”とレッテルを張られている少女ブルーと兄を亡くして心に闇を抱えているバスケット部の少年アントニオ、クラスのはみ出し者だった2人と意気投合し、3人で友情を育んでいくが、ロレンツォのある行動がきっかけで少しずつ歯車が狂い始める——。